



令和3年9月14日
内閣府（防災担当）

令和3年防災功労者防災担当大臣表彰の受賞者決定について

標記について、別添のとおり受賞者が決定しましたのでお知らせします。

※ 防災功労者防災担当大臣表彰は、災害時の防災活動の実施、防災思想の普及又は防災体制の整備の面で貢献し、特にその功績が顕著であると認められる団体又は個人を対象として表彰するものです。

【本件問合せ先】

内閣府政策統括官（防災担当）付

参事官（総括担当）付 浪越、内野、鈴木

電話：03-3593-2844（直） FAX：03-3503-5690

令和3年 防災功労者防災担当大臣表彰受賞者名簿

○ 個人

〔防災体制の整備〕

中 埜 良 昭
矢 守 克 也
蔭 宇 静

(内閣府)
(兵庫県)
(長崎県)

〔防災思想の普及〕

杉 本 伸 一
野 口 理 明

(長崎県)
(日本赤十字社)

〔災害時の防災活動〕

ルイテル マヘス
吉 田 光 宏
田 中 文 雄

(栃木県)
(熊本県)
(熊本県)

○ 団体

〔防災体制の整備〕

大館市本郷自主防災組織
西院第二学区自主防災会
松江地区防災会
内町自主防災会
一宮・下町地区自主防災会連合会

(秋田県)
(京都府)
(和歌山県)
(徳島県)
(徳島県)

〔防災思想の普及〕

八戸地域防災協会
桧内自主防災会

(青森県)
(群馬県)

〔災害時の防災活動〕

京都府災害ボランティアセンター
医療法人社団 明佑会 峯苦医院
特定非営利活動法人くまもと災害ボランティア団体ネットワーク
あらお防災人の会

(京都府)
(熊本県)
(熊本県)
(熊本県)

以上、19件(8個人、11団体)

功 績 概 要

個人 [防災体制の整備]

推 薦 者	内 閣 府
ふ り が な 氏 名	なかの よしあき 中 埜 良 昭
住 所	神奈川県横浜市戸塚区
職 業	東京大学生産技術研究所教授
功 績 の 概 要	<p>氏は、耐震工学の研究分野において優れた成果を残しているほか、地震・津波に対する防災行政へ有用な提言を行うなど、その活動は非常に幅広いものである。</p> <p>研究活動分野においては、建築構造物の部材から構造物全体を対象に、実験的解析的手法により、地震や津波による構造物の損傷メカニズムを検討し、建築構造物の耐震性能向上に資する研究成果を発信するなど、高い学術的成果をあげている。2019年から2021年まで日本地震工学会の会長を務めた。</p> <p>防災行政においては、南海トラフ地震や首都直下地震、日本海溝・千島海溝沿いにおける地震のそれぞれに関する検討会で委員を務めているほか、津波避難ビル等の構造設計法等の検討委員会では委員長を務めており、今日に至るまで高い専門性から数多くの有用な提言を継続して行っており、防災行政における貢献度は絶大である。</p>

功 績 概 要

個人 [防災体制の整備]

推 薦 者	兵 庫 県
ふ り が な 氏 名	やもり かつや 矢守 克也
住 所	大阪府豊中市
職 業	京都大学防災研究所巨大災害研究センター教授
功 績 の 概 要	<p>氏は、防災教育、防災心理学の専門家として、兵庫県の推進する安全で安心な社会づくりに向けて、専門的見地から災害時の住民避難行動等について提言を行うなど、兵庫県の防災・減災対策の充実に多大な貢献を果たした。</p> <p>また、災害時の学校現場や地域コミュニティにおける避難対策等について、内閣府が設置する検討会で委員を歴任し、提言・検証を行うなど、兵庫県はもとより、本邦の防災・減災対策の充実に多大な貢献を果たした。</p>

功 績 概 要

個人 [防災体制の整備]

推 薦 者	長 崎 県
ふ り が な 氏 名	じゃん いじん 蔣 宇 静
住 所	長崎県西彼杵郡時津町
職 業	長崎大学総合生産科学域（工学系）教授
功 績 の 概 要	<p>氏は、長崎県の道路防災事業計画委員会委員長や各種事業の委員会委員として参画し、防災事業計画の策定と防災対策の専門的助言を行い、長崎県の防災体制の整備に多大な貢献をしている。</p> <p>令和2年7月の記録的豪雨によって、道路が寸断し、平戸町民が孤立状況となった「平戸生月線斜面崩壊」と人的被害を生じた「轟峡法面崩壊」発生直後に現地調査を行い、被災地の早期復旧と再発防止のために、専門的助言と提言を行うなど、地域の安全安心に多大な貢献をしている。</p>

功 績 概 要

個人 [防災思想の普及]

推 薦 者	長 崎 県
ふ り が な 氏 名	すぎもと しんいち 杉本 伸一
住 所	長崎県島原市
職 業	雲仙岳災害記念館館長
功 績 の 概 要	<p>氏は、雲仙普賢岳噴火災害時の島原市職員として火山防災の実践に基づき、長年にわたり、市民や防災担当者などへ講演会などを通じ、噴火災害の脅威と防災対策について、分かりやすく説明し、火山地域での備えとして火山に対する知識と危機管理意識の重要性を、積極的に啓発する活動を行っている。</p> <p>また、内閣府火山防災エキスパートとして、日本各地の自治体などにおいて、防災講演活動や避難訓練、避難訓練の企画などにも参画し、助言をしてきた。</p> <p>火山防災の専門家として幅広く活躍し、防災思想の普及における貢献度は多大である。</p>

功 績 概 要

個人 [防災思想の普及]

推 薦 者	日 本 赤 十 字 社
ふ り が な 氏 名	のぐち みちあき 野口 理明
住 所	栃木県宇都宮市
職 業	自営業
功 績 の 概 要	<p>氏は、平成19年から赤十字防災ボランティアとして、平成23年度からは赤十字防災ボランティア・リーダーとして、日赤栃木県支部が主催する赤十字防災ボランティア養成研修等の指導・運営に協力し、赤十字防災ボランティアの後進を育成するとともに、ボランティア活動を希望する市民に対して、ボランティア活動の参加にかかる社会環境の醸成に貢献した。</p> <p>また、平成29年度から、赤十字防災教育指導者として、指導的な立場で赤十字防災セミナーの実施・運営に協力、地域住民への防災・減災の普及啓発に貢献した。</p>

功 績 概 要

個人 [災害時の防災活動]

推 薦 者	栃 木 県
ふ り が な 氏 名	ルイテル マヘス
住 所	栃木県栃木市
職 業	自営業
功 績 の 概 要	<p>在住外国人の増加に伴い、災害発生時における外国人に対する情報提供の重要性が増している。災害時、外国人は刻々と変化していく状況に関する情報を入手することは難しく、いわゆる情報弱者となる。</p> <p>氏は、令和元年東日本台風の際、外国人コミュニティの中心人物として情報発信に努め、在住外国人の安全・安心確保に大きく貢献した。</p> <p>また、災害直後に氏が呼びかけたボランティア活動は、直接的な復旧支援のみならず、被災者の活力を取り戻すための交流機会作りの場となった。</p>

功 績 概 要

個人 [災害時の防災活動]

推 薦 者	熊 本 県
ふ り が な 氏 名	よしだ みつひろ 吉田 光宏
住 所	熊本県宇土市
職 業	医師
功 績 の 概 要	<p>氏は、令和2年7月豪雨の際、発災直後から院長を務める八代北部地域医療センターにおいて災害対策本部を立ち上げ、被災した医療機関の支援や被害状況の把握、被災地からの患者受入れなどを精力的に行った。</p> <p>また、八代地域保健医療調整現地本部の災害医療コーディネーターとして、本部長（八代保健所長）を補佐し、保健医療活動チーム等の連絡調整や、収集した情報の分析・対応策の検討等を行うとともに、避難所生活の長期化による健康課題の解決のために立ち上げた「八代地域避難所健康課題対策支援チーム」では、中心的役割を担った。</p>

功 績 概 要

個人 [災害時の防災活動]

推 薦 者	熊 本 県
ふ り が な 氏 名	たなか ふみお 田中 文雄
住 所	熊本県八代市
職 業	退職者
功 績 の 概 要	<p>令和2年7月豪雨に際し、甚大な被害を受けた熊本県八代市坂本町の復旧のため、八代市社会福祉協議会において、災害ボランティアセンターを設置。これまで8,400名の方に活動していただいた。</p> <p>氏は、ボランティアセンターの開設初期から、継続的にボランティア活動に取り組み、高齢ながら、ほぼ毎日、自宅から自転車で通い、黙々と被災した家財等の搬出作業等を行った。</p> <p>また、新聞・報道等にも取り上げられ、八代市災害ボランティアセンターの象徴的な存在となり、ボランティアセンター開設期間の84日中、79日の参加はトップクラスの数字である。</p> <p>他の被災地(人吉市・球磨村)と比べ、被害状況等がメディアであまり取り上げられなかった坂本町におけるボランティアの確保に寄与したといっても過言ではない。</p> <p>八代市坂本町における復旧活動において多大な貢献が認められる。</p>

功 績 概 要

団体 [防災体制の整備]

推 薦 者	秋 田 県
ふ り が な 名 称	おおだてしほんごうじしゅぼうさいそしき 大館市本郷自主防災組織
所 在 地	秋田県大館市
代 表 者 (団体での職名)	組合長 ^{はせべ} 長谷部 ^{よしとか} 芳孝
功 績 の 概 要	<p>大館市本郷自主防災組織は、「自分たちの命は、自分たちで守る」という目的の基に、組織内での役割分担（班編成）を明確化し、それぞれの班ごとに減災をメインとした訓練を重ね早期避難体制を構築している。加えて、独自に救命講習会を行い救命率の向上を図っている。</p> <p>また、訓練や講習会を重ねたうえで必要と感じた防災資機材を選定し、コミュニティ助成事業を活用して地域の集会所（一時避難所）に配備する等、総合的に地域防災力の向上に取り組み、自主性と積極性を兼ね備えた組織である。</p>

功 績 概 要

団体 [防災体制の整備]

推 薦 者	京 都 府
ふ り が な 名 称	さいいんだいにながくじしゅほうさいかい 西院第二学区自主防災会
所 在 地	京都府京都市右京区
代 表 者 (団体での職名)	すずき よしやす 鈴木 義康
功 績 の 概 要	<p>西院第二学区自主防災会は、「災害に強い・安心安全のまち西院第二」を目指し、防火・防災活動を活発に行っている。</p> <p>例年は、学区総合防災訓練を始め、防火講習会等を積極的に実施しており、防災への意識は非常に高い。学区総合防災訓練では会長以下本部役員が出席し、会長自らが災害時における自助・共助の必要性を住民に訴え、より小さな単位である下部組織の自主防災部から、防火・防災意識の向上に努めている。</p> <p>また、毎月15日に自主防災会主導の下、防火見回り活動も実施している。自主防災会長以下各種団体長により避難所開設や運営の訓練及び勉強会を実施し、災害に対する意識向上を図っている。</p> <p>このように、コミュニティの防災力を高める活動を積極的に行い、他の自主防災会活動の模範となっている。</p>

功 績 概 要

団体 [防災体制の整備]

推 薦 者	和 歌 山 県
ふ り が な 名 称	まつえちくぼうさいかい 松江地区防災会
所 在 地	和歌山県和歌山市
代 表 者 (団体での職名)	かわぐち としお 川口 敏夫
功 績 の 概 要	<p>松江地区防災会は、平成12年6月発足以来、21年の永きにわたり、地区の防災力及び地区住民の防災知識の向上等防災体制の整備に努めている。</p> <p>南海トラフ地震や近年の豪雨災害に備え策定した「松江地区防災計画」に基づき、大規模な防災訓練を継続して行っており、平成28年には「松江地区津波避難計画」を策定した。</p> <p>計画を策定した地域の自治会がリーダーとなり松江地区で未作成自治会の防災計画等を策定するため、指導、助言を行うとともに一緒にまち歩きを行い、現状に沿った避難場所及び経路の確認をするなど防災計画の策定の促進に努めている。</p> <p>防災訓練は、「松江はひとつ」をスローガンに、幼稚園児、小中学生、地区の住民、さらには地区の事業所の方々を含め、松江地区で生活活動をする人々、1,000人規模の参加者による訓練を「松江地区防災計画」に基づき毎年行っている。特に、要配慮者には十分な配慮をして実際の災害時に役立つよう避難時の状況を想定し、健常者とともに迅速に避難する訓練を行っている。</p> <p>また、同訓練において防災会で備えている資機材の展示や取り扱いの確認・点検、参加者に対する指導など技術の向上にも努めている。</p> <p>日頃から地域内の自治会、小中学校、PTA、見守り団体などあらゆる団体との交流を深め、地域が一丸となり顔の見える活動に取り組んでいる。</p> <p>同会は地道な活動を継続して行っており、地域住民が安心・安全に暮らせるまちづくりに貢献している。</p>

功 績 概 要

団体 [防災体制の整備]

推 薦 者	徳 島 県
ふ り が な 名 称	うちまちじしゅぼうさいかい 内町自主防災会
所 在 地	徳島県徳島市
代 表 者 (団体での職名)	会長 <small>はまぐち</small> 濱口 <small>やすのり</small> 靖徳
功 績 の 概 要	<p>内町自主防災会は、計画的に防災訓練、防災研修等を実施している。津波避難困難地域であることから地域住民の防災意識も高く、毎回多くの地域住民が訓練等に参加している。</p> <p>また、自主防災会、学校、コミュニティセンター及び消防団等の各種団体と連携し、避難場所の確保や避難経路の調査など、地域に根ざした防災活動を実施し、地域一丸となった協力体制を確立している。</p> <p>さらに、平成13年に独自で内町地区避難マップを完成させたほか、平成26年には津波避難支援マップの作成に積極的に取り組み、自ら建物所有者に協力を依頼し、一時避難場所として津波避難ビルを確保するなど、南海トラフ巨大地震等の大規模災害が発生した場合の被害軽減に努め、防災体制の整備に多大な貢献をしている。</p>

功 績 概 要

団体 [防災体制の整備]

推 薦 者	徳 島 県
ふ り が な 名 称	いちのみや しもまちくじしゅぼうさいかいいんごうかい 一宮・下町地区自主防災会連合会
所 在 地	徳島県徳島市
代 表 者 (団体での職名)	会長 <small>たけだ ひろゆき</small> 竹田 廣行
功 績 の 概 要	<p>一宮・下町地区自主防災会連合会は、それまで単独で活動していた地域内の13自主防災会が連携し、平成25年7月23日に設立した連合会である。結成以来、毎年、年3回以上の防災訓練、防災研修等を実施し、地域コミュニティの活性化を図るとともに、地域防災力の向上に努めている。</p> <p>特に、町づくり推進協議会と自主防災会連合会が一体となって毎年1月に実施している防災訓練では、消防分団、地域住民、小中学生等が多数参加し、地域防災力の向上、連帯感の強化を図っており、防災体制の整備に多大な貢献をしている。</p>

功 績 概 要

団体 [防災思想の普及]

推 薦 者	青 森 県
ふ り が な 名 称	はちのへちいきぼうさいきょうかい 八戸地域防災協会
所 在 地	青森県八戸市
代 表 者 (団体での職名)	さいとう ひろし 齊藤 浩
功 績 の 概 要	<p>八戸地域防災協会は、各事業所における災害防止のみならず、地域住民の防災意識の高揚を図り、災害のない安全な地域づくりを推進するため、会員相互が協力し各種事業を行い、地域社会の安全と社会公共の福祉の増進に寄与するため事業を展開している。</p> <p>災害時要援護者世帯に住宅用火災警報器を年間約100個寄贈設置し、併せてコンセントの増設、水道蛇口の漏水改修、火気使用器具の点検並びに防火指導を実施し、地域社会の安全と地域の防災力向上に大きく貢献している。</p> <p>また、会員、少年・女性消防クラブ員及び消防職団員が、それぞれの立場から防火防災に関する発表をする防災意見発表会を開催し、防災思想の普及高揚を図っている。</p> <p>さらに、隔年で防災フェスタを開催し、民間防火組織の拡大強化、住宅火災の未然防止と被害の軽減、地域住民への防火意識の高揚を図り、地域防災体制の一層の充実強化に努めている。あわせて、幼年消防クラブを対象に防災図画コンクールを行い、幼少期からの防火思想意識付けを行うとともに、入賞作品の図柄で防火ポスターを作成、配布して火災予防啓発などの防災活動に力を入れている。</p> <p>協会創立10周年記念事業として、八戸地域少年消防クラブ育成協議会へ心肺蘇生訓練資機材（AEDトレーナーと心肺蘇生用人形5セット）を寄贈するなど、消防クラブ育成強化への助成を行っている。</p>

功 績 概 要

団体 [防災思想の普及]

推 薦 者	群 馬 県
ふ り が な 名 称	ひのきうちじしゅぼうさいかい 松内自主防災会
所 在 地	群馬県邑楽郡千代田町
代 表 者 (団体での職名)	さかもと なおき 坂本 直紀 (会長)
功 績 の 概 要	<p>松内自主防災会は、自然災害の犠牲者ゼロを目指して、地域での防災訓練を毎年開催するとともに、災害対策に必要な資料を作成し、住民に配付、公民館等に掲示することで防災思想の普及を行い、災害に備えている。</p> <p>また、町内で別々に活動していた自主防災会に情報交換・知識普及の場が必要と考え、協議会の必要性を提案し、設置を先導した。</p> <p>協議会では、これまでの知識や経験、取組を積極的に共有し、他の自主防災会の模範となっている。</p> <p>地区のみならず、町全体の防災意識の向上に大きく貢献してきた当会の活動は自主防災組織の理想モデルである。</p>

功 績 概 要

団体 [災害時の防災活動]

推 薦 者	京 都 府
ふ り が な 名 称	きょうとふさいがいぼらんていあせんたー 京都府災害ボランティアセンター
所 在 地	京都府京都市中京区
代 表 者 (団体での職名)	なかい としひろ 中井 敏宏
功 績 の 概 要	<p>京都府災害ボランティアセンターは、京都府北部に大きな被害をもたらした平成16年の台風23号水害での支援活動を契機に、平成17年に全国に先駆け、官民協働の災害ボランティアセンターとして設立された。</p> <p>その後16年にわたり、府内・府外を問わず、大規模災害時においては、コーディネーターの派遣、資機材搬送、ボランティアバスの運行やサポート募金等、そのつど被災地が必要とする支援内容を提供し続けてきた。災害時に対応する専任職員を配置しているのも特徴の一つである。</p> <p>また、平常時の防災・減災活動にも力を入れ、構成団体やサポーター団体と連携し、様々な研修や啓発にも取り組んでいる。</p> <p>平成27年には、同センターの呼びかけにより、京都府内全25市町村社協で常設（協定型含む）の災害ボランティアセンターが整備されたことも非常に大きな成果であった。</p> <p>京都府内における災害ボランティア活動、また防災・減災活動をけん引している。</p>

功 績 概 要

団体 [災害時の防災活動]

推 薦 者	熊 本 県
ふ り が な 名 称	いりょうほうじんしゃだん めいゆうかい みねとまいいん 医療法人社団 明佑会 峯苦医院
所 在 地	熊本県八代市
代 表 者 (団体での職名)	理事長 ^{みねとま} 峯苦 ^{たかあき} 貴明
功 績 の 概 要	<p>医療法人社団 明佑会 峯苦医院は、令和2年7月豪雨災害により、自らの医療機関が被災しながらも、避難所での被災者支援を行い、また、被災地で孤立している住民の健康管理のため、往診・訪問診療等を行い、被災地における地域住民への治療や心身のケアのために奔走した。</p>

功 績 概 要

団体 [災害時の防災活動]

推 薦 者	熊 本 県
ふ り が な 名 称	とくていひえいりかつどうほうじんくまもとさいがいぼらんていあだんたいねっとわーく 特定非営利活動法人くまもと災害ボランティア団体ネットワーク
所 在 地	熊本県熊本市中央区
代 表 者 (団体での職名)	代表理事 ^{ひぐち} 樋口 ^{つとむ} 務
功 績 の 概 要	<p>特定非営利活動法人くまもと災害ボランティア団体ネットワークは、平成28年熊本地震における被災者支援活動の中で培ったノウハウやネットワークを、一過性のもので終わらせないことを目的として設立され、現在まで行政やNPO団体等との連携や調整及び被災者支援活動を継続している。</p> <p>令和2年7月豪雨においては、そのノウハウやネットワークを活かし、発災から3日後にはNPO団体等の情報共有会議を開始。被災地ニーズの把握やシーズとのマッチング、団体間の活動調整を行うなど、災害時の防災活動に多大な貢献をした。</p>

功 績 概 要

団体 [災害時の防災活動]

推 薦 者	熊 本 県
ふ り が な 名 称	あらおぼうさいにんのかい あらお防災人の会
所 在 地	熊本県荒尾市
代 表 者 (団体での職名)	かつき きいちろう 甲木 喜一朗
功 績 の 概 要	<p>荒尾市で防災の啓発活動を行う任意団体である当団体は、防災士を複数擁しており、他の被災地で災害ボランティアの経験が豊富であったことから、昨年7月豪雨において災害ボランティアセンターを主催する荒尾市社会福祉協議会から依頼を受け、災害ボランティアセンターの物資の管理と運用を担当した。7月10日の開設日から8月8日の閉鎖まで休みなく従事し、円滑な災害ボランティアセンターの運営に寄与し、早期の復旧に貢献した。</p>